

2020(令和2)年度第1回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会
島ヶ原地域部会 議事概要

■開催日時 2020(令和2)年10月14日(水)
午後7時～午後8時35分

■開催場所 島ヶ原会館 第2研修室

■出席者 (敬称略)

【委員】

松永 享二(島ヶ原地域まちづくり協議会会長)、川口 文克(島ヶ原地域まちづくり協議会副会長)、山菅 善文(島ヶ原地域まちづくり協議会事務局長)、奥川 繁也(大道区長)、平井 喜美男(奥村区長)、山岡 芳久(中村区長)、西口 馨(町区長)、菅 幸政(山菅区長)、岡嶋 久夫(川南区長)、松森 重男(中矢区長)、千速 宗秀(不見上区長)、南出 藤作(島ヶ原地域まちづくり協議会産業生活部会部会長)、山菅 善宣(島ヶ原地域まちづくり協議会広報宣伝部会部会長)

【事務局】

交通政策課 課長 吉岡 徹也、主幹 坂森 荘平、
主査 吉福 将徳

島ヶ原支所 振興課 主任 平尾 慶旬

■傍聴者 0人

■会議概要

1. 開会

交通政策課長挨拶

2. 協議事項

(1)(仮称)伊賀市地域公共交通計画の策定について

事務局から計画本編案に基づき説明

【質疑応答】

部委員	上野を中心とした循環網を構成している印象を受けた。市内の移動だけを考えてはだめなのではないか。
事務局	島ヶ原から域外への移動ということでJR関西本線がありますが、利用者数は減少しています。JRからは現状維持が厳しいようなことを言われますが、1時間に1本という現状は維持したいと考えています。2021年春には、交通系ICカードが利用できるようになりますので、さらなる利用促進を図っていきたいと思います。

	<p>地域内の移動手段としては行政バスがあります。定時定路線型の運行が限界を迎えており次の手法を考えていかなければなりません。行政バスは大切な移動手段ですので残していきたいと考えています。</p>
部委員	<p>J Rに対して要望を出しているだけなのか。利用者数を増やす積極的な施策が必要だ。</p>
事務局	<p>市で経費を負担し、市内のJ R駅の有人化を図っています。また、沿線でウォーク事業を開催し、鉄道に乗っていただくよう働きかけるような施策も行っています。観光面ではインバウンドだけでなく国内観光客にも注意を払い観光部局と連携して、できるところから進めていきたいと思ひます。</p>
部委員	<p>計画は非のつけどころがないが、具体的に何をするのか見えてこない。より具体的にすべきではないか。</p>
事務局	<p>計画案では、施策を具体的に書いている箇所もあれば、イメージとして書いている部分もあります。何をするかについては、皆さんと一緒に考えていかなければならない部分もあると思ひます。私どもも努力してこの内容を達成していかないと現状維持もできないと考えています。そして、この計画の実施主体には、市民の方、地域も入っています。今後、私どもだけでなく、皆さんも巻き込んでがんばっていきたく思ひますので、ご協力をお願いします。</p>
部委員	<p>支所の統廃合に関連して、島ヶ原、大山田の交通についてどう考えているのか。本庁へ行かなければならなくなった場合、どうしたらよいのか。</p>
事務局	<p>支所がなくなっても生活拠点であるということでしたら、今までどおりそこへ公共交通をつなぎにいきます。</p> <p>また、本庁へ行く必要の有無については、地域に機能がどれだけ残るのかによって違ってくると思ひます。今後、それによって交通ネットワークを考えていく必要があると思ひます。</p>
部委員	<p>民間が交通の便を出さないところへ移動手段を出すのは、行政の義務と認識している。廃止代替バスは不便になっているし、行政バスは放ったらかしだ。地域の意見を十分に汲まずに、廃止代替バスを不便に改定してしまっている。</p>
事務局	<p>行政バスについては、支所からまちづくり協議会さんへ「行政バスについてどうお考えか」と投げかけてありましたが、お返事をいただかなかったこと、また廃止代替バスの見直しは沿線の各地域と協議しながら進めましたことをご理解をお願いします。</p> <p>今あるものは残したいですし、利便性を高めたいという思ひがあ</p>

	ります。島ヶ原線も単体なら廃止を免れなかったという前提があり、なんとかしたいということで、西山線との統合を図りました。
--	---

【承認】

3. その他

- ・バス路線別令和元年度実績およびコロナ禍での安全な公共交通利用について、事務局から資料に基づき説明。

【質疑応答】 なし

(終了)